



アルプス子ども会

代表交代の お知らせとご挨拶



活動に加わって丸40年となるのを機に会の代表を辞任し、「春の子ども会」終了を以て4月1日より現副代表の桜井翠（あだ名「かばやき」）にバトンタッチすることにいたしました。次世代への委譲はどこに於いても不安がつきまとうものですが、すぐに会務から離れずに、まだ私に余力がある内に体制を鍛え整えていく算段です。

何より、彼女は会の「めざすこと」や存在意義を深く理解し、社会への関心も高く、さまざまな力を備えており、新たな地平が切り開かれるものと確信しています。これまで長年にわたるご支援、ご指導に深く感謝いたしますとともに、倍旧のお支えと、引き続きコラムご愛読を心よりお願いいたします。（綾崎幸生＝でこびん）

● 着任のご挨拶 桜井 翠

私をはじめて会に参加したのは、小学校四年生の夏でした。学校では、先生方の温かいまなざしに見守られてはいましたが、乱暴な子で通っていたので、ほとんど初対面の人に囲まれた自由な生活は、とにかく楽しく、新しい自分になれる気がしたものです。そして、高校生大学生たちに憧れて中学二年でリーダーになりました。以来、たくさんの忘れられない体験や、出会いを駒ヶ根でしてきました。人格形成の大きな要素の一つです。

楽しさや憧れだけではじめたリーダーですが、意識が大きく転換したのは、研修や仲間との語り合いの中で、この活動と社会の結びつきを考えるようになった時でした。私たちの暮らす社会には、苦しく辛い思いをしている人がたくさんいます。誰もがという一般的な話ではなく、性別や地域、学歴や収入、環境などによる偏ったかたちで。高校や大学の授業で、あるいは日常生活や書物を通して知る社会矛盾に対して、自分はあまりに無力ではないか、そう感じていました。しかし、私たちが子ども会で、リーダー仲間や子どもたちと作り上げる日々は、もしかしたら社会進歩につながるのではないか、そう考えるようになったのです。

国や世界は、たしかに複雑で広くて、私たちの日常とはとても地続きには考えられないかもしれません。けれど、自分にとって都合の悪い人と、どう折り合いをつけるか。話してみたら案外悪いやつじゃなかったり、やっぱ嫌いだけ面白い一面もあるんだなと思えたり。誰かが一人で困っている問題を、グループのみんなで知恵をしばって解決しようしたり。うまくいったりいかな

かったり。そういう体験がある人は、きっと「社会」という大きな単位にも、その実感を敷衍して考えることができるのではないかと思うのです。

私の学んだ高校の校歌には、「人権の世紀の使命守りゆかん」という歌詞があります。中学校では、思春期らしく「校歌なんて」とそっぽを向いていた私ですが、この歌にはすぐに魅せられました。今でもたびたび思い出せば、励まされます。私が作りたい社会も、こうなんだと。誰もが自分らしく生きられる、人権が大切にされる社会を実現したいと。会の活動も、その一歩だと考え、日々取り組んできました。まずは、

- 常に子どもたちの本質的な利益を一番に考える会の運営
- より深く思考し、多様性を保ったリーダー育成

上記二点のための、絶え間ない対話を基本姿勢とし、進歩する会作りをめざしていきたいと考えています。まだまだ、至らないところだらけで、現地スタッフやリーダー仲間につつまれてばかりですが、持てる能力と周囲の支えを存分に生かして、会としての新たな一歩を踏み出す所存です。集合解散地で、何気なく保護者のみなさんから「かばやき」と声をかけていただいていることが、大きな励みになっています。ぜひ、月並みではありますが、ご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

● 経歴 1981年生まれ、会歴29年め。蜂の巣型校舎で知られる東京都調布市染地小学校でアイデンティティーが形成される。自由を校是とする和光高校、早稲田大学第一文学部日本史専修卒。中高生リーダー、学生リーダーを経て、常勤職員に。一昨年秋より当会副代表。